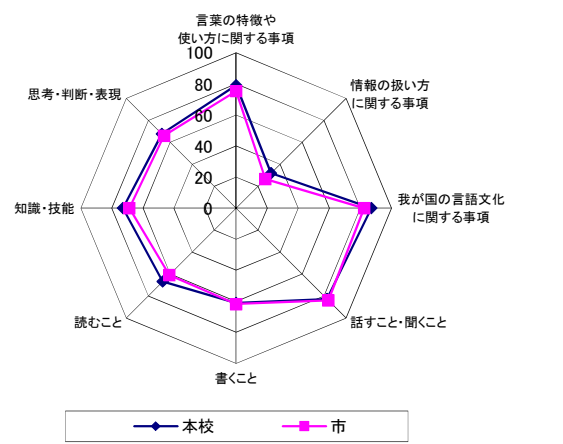


宇都宮市立城東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	31.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	87.0	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	82.7	83.9	84.2
	書くこと	61.0	61.7	64.5
	読むこと	66.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	72.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	67.7	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

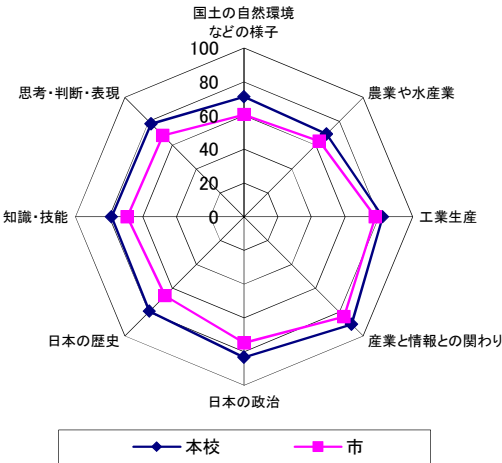
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○本校の平均正答率は79.1%で、市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ○三字の熟語の成り立ちについて答える問題については、平均正答率は89.6%で、市の平均正答率を5.6ポイント上回っている。 ○敬語について理解し、正しく使っているものを選択する問題については、平均正答率は71.4%で、市の平均正答率を19.4ポイント上回っている。 ●文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う問題については、市の平均正答率を5.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字スキル等を利用して、漢字の読み書きの定着を図るとともに、文脈に沿って適切に漢字を使えるようにしていく。
情報の扱い方 に関する事項	○本校の平均正答率は31.8%で、市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理して短答する問題については、市の平均正答率を7.5ポイント上回っているものの、平均正答率は24.7%であった。	・文章中の情報と情報との関係を理解するために、文章を読むときには、情報を整理しながら読み取るよう指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	○本校の平均正答率は87.0%で、市の平均正答率を4.6ポイント上回っている。 ○語句の由来に興味をもち、和語、漢語、外来語について答える問題については、市の平均正答率を4.6ポイント上回っている。	・和語、漢語、外来語について、より興味をもって学習できるよう、調べ学習などを取り入れながら、知識を深めていく。
話すこと・聞くこと	●本校の平均正答率は82.7%で、市の平均正答率を1.2ポイント下回っている。 ○意図に応じて、質問を工夫する問題については、平均正答率は89.6%で、市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。 ●話の内容を捉える問題については、平均正答率は80.5%で、市の平均正答率を3.3ポイント下回っている。	・話の内容を捉えながら聞く力を高めるために、話の流れや中心となる事柄をメモしたり、話の要点をまとめたりする活動に取り組ませていく。
書くこと	●本校の平均正答率は60.1%で、市の平均正答率を0.7ポイント下回っている。 ○予想される反論とそれに対する意見を書く問題については、平均正答率は46.8%で、市の平均正答率を3.4ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題については、市の平均正答率を3.2ポイント上回っているものの、平均正答率は39.0%であった。	・文章を書くことに苦手意識をもたないよう、日頃から振り返りの記述や作文指導などを通して、文章を書く習慣をつけていく。 ・文章を書くときには、自分の体験やデータなどの根拠を示したり、情報を整理して取捨選択したりするなどして、目的に応じた説得力のある文章を書くよう指導していく。
読むこと	○本校の平均正答率は66.9%で、市の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ○登場人物の様子について描写を基に捉える問題や文章全体の構成を捉える問題では、平均正答率はともに72.7%で、市の平均正答率を9.2ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理して短答する問題については、市の平均正答率を7.5ポイント上回っているものの、平均正答率は24.7%であった。	・説明文の読み取りに苦手意識をもたないよう、比較的内容が簡単な説明文を読み取る機会を増やしていく。 ・説明文を読み取るときには、目的や情報を意識しながら、叙述に即して読み取っていくよう指導していく。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.2	60.5	65.8
	農業や水産業	69.3	63.3	66.0
	工業生産	82.3	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	90.3	83.8	76.6
	日本の政治	83.4	74.9	74.1
	日本の歴史	79.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	78.6	69.3	71.4
	思考・判断・表現	77.9	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

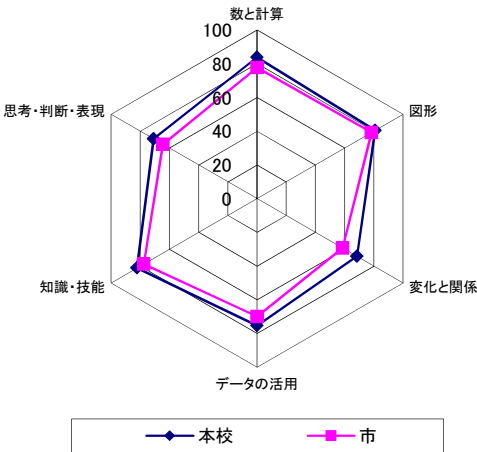
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○本校の平均正答率は71.2%で、市の平均正答率を10.7ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名についての問題では、本校の平均正答率は85.7%で、市の平均正答率を11.4ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・全ての問題で、市の平均を上回っている。引き続き、個に応じた指導を心掛けたり、ICTを有効活用したりして、さらなる学力向上に努めていく。 ・日本周囲の国の位置や国旗を指導をする際には、日常の国際情勢やニュース・出来事と結び付けながらフラッシュカード等で国名を提示したり、地図で位置を示したりして、児童の印象に残るような工夫をしていく。
農業や水産業	○本校の平均正答率は69.3%で、市の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ○日本の主な食料の自給率についての問題では、本校の平均正答率は45.5%で、市の平均正答率を9.2ポイント上回っている。	・グラフや表、地図などの資料から分かることを読み取ったり、分かったことから自分の考えを表現したりする学習を、今後も継続していく。 ・都道府県名と位置の学習において、地図帳や資料集を活用し、地図の凡例の見方を指導したり、フラッシュカードで児童に印象付けたりして、理解の定着を図る。
工業生産	○本校の平均正答率は82.3%で、市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ●日本の主な輸出品・輸入品についての理解を見る問題では、本校の平均正答率は54.5%で、市の平均正答率を2ポイント下回っている。	・日本の主な鉱産資源の輸入品と輸入相手国について調べる学習を通して、外国との貿易が日本の工業生産を支える重要な役割を果たしていることに気付かせ、学習への興味・関心を高め、理解の定着を図る。
産業と情報との関わり	○本校の平均正答率は90.3%で、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ○産業における情報活用の現状について考える問題では、本校の平均正答率は85.7%で、市の平均正答率を10.9ポイントと上回っている。	・インターネットの便利さを認識し、活用している児童は増えてきている。学級活動などで、インターネットの活用の仕方について話し合う活動を引き続き行うことで、理解を深めたい。 ・身の回りにあるメディアの特徴について、調べる活動を通して理解の定着を図る。
日本の政治	○本校の平均正答率は83.4%で、市の平均正答率を8.5ポイント上回っている。 ○基本的人権の尊重の基本的な考え方についての問題では、本校の平均正答率は94.8%で、市の平均正答率を13.5ポイントと上回っている。	・日本国憲法の三原則が、生活の中でどのように生かされているのか、テレビや新聞記事等を活用し、興味をもって学ぶことができるように支援していきたい。 ・基本的人権については、身近にある具体的な例を挙げて学習することを通して、理解の定着を図る。
日本の歴史	○本校の平均正答率は79.4%で、市の平均正答率を13.1ポイントと上回っている。 ○鎌倉時代、室町時代に関する問題では、本校の平均正答率は、各設問で市の平均正答率を10～30ポイント以上と、大きく上回っている。	・関心をもって調べ学習に取り組んだ成果が表れている。 ・鎌倉時代以降の室町時代の文化や安土桃山時代、江戸時代の政策・人物の業績についてよく理解している。これからも、資料をもとに学習したことを文章やスライドなどで表す活動を取り入れることで、表現力を高め、日本の文化や歴史についての理解を深めたい。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.8	77.7	78.6
	図形	80.9	78.4	74.4
	変化と関係	68.4	58.7	53.0
	データの活用	75.3	69.9	57.2
観点別	知識・技能	82.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	70.9	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

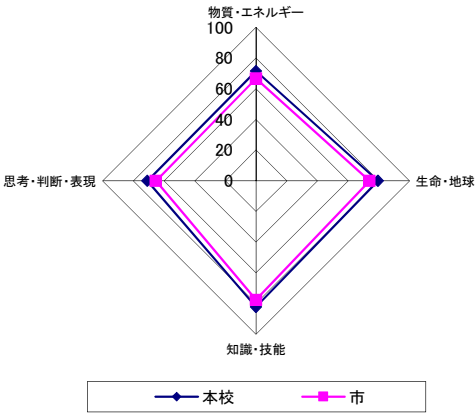
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は83. 8%で、市の平均正答率を6. 1ポイント上回っている。 ○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題では、市の平均正答率を14. 5ポイント上回っている。 ●異分母分数の減法(約分なし)の計算問題では、市の平均正答率を2. 8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の計算については、計算技能の定着が見られる。今後もAIDリルなどを活用しながら基本的な計算練習を繰り返し行い、より正確な計算技能が身に付くよう指導していく。 ・分数の計算問題については、児童が計算技能を正しく把握できているか確認したり、分数を簡単な数に置き換えて考えさせたりして、数学的思考力を高めるようにする。
図形	○本校の平均正答率は80. 9%で、市の平均正答率を2. 5ポイント上回っている。 ○図に示された四角形の内角の和の求め方を説明する記述問題では、市の平均正答率を7. 7ポイント上回っている ●図に示された六角形の内角の和の求め方を表す式を選ぶ問題では、市の平均正答率を4. 4ポイント下回っている。	・面積や体積の問題では、長方形の面積や直方体の体積の求め方を活用して、様々な図形の面積や体積が求められることを視覚的にイメージできるよう、デジタル教材などで確認するとともに、体積や面積を求める問題を反復練習し、定着を図る。 ・図形の内角等を求める学習では、習熟度学習の充実や確認テストの実施などにより、知識の定着を図るとともに数学的思考力を高めるようにする。
変化と関係	○本校の平均正答率は68. 4%で、市の平均正答率を9. 7ポイント上回っている。 ○表から面積と人数の割合を求め、混雑度を考察する問題では、市の平均正答率を13. 9ポイントと大きく上回っている。	・単位量あたりの大きさについては、引き続き、表や図を用いて考える力が身に付くよう指導していく。 ・速さについては、単位の関係や道のり・速さ・時間の関係を確認し、日常生活の中でも活用できるようにする。
データの活用	○本校の平均正答率は75. 3%で、市の平均正答率を5. 4ポイント上回っている。 ○平均から全体の量を推測する問題では、9. 2ポイント市の平均正答率を上回っている。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する記述問題では、市の平均正答率を7. 3ポイント上回っているものの、平均正答率は51. 9%とやや低い。	・グラフから読み取ったデータの特徴や傾向から考えたことを話し合う活動を充実させ、児童がグラフを活用することのよさを実感できるような指導を継続していく。 ・AIDリルの活用により基本問題の定着を図る。 ・記述式の問題に取り組む機会を増やし、考え方や解答の仕方などに慣れるよう指導する。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.4	66.5	66.3
	生命・地球	79.5	74.0	72.6
観点別	知識・技能	82.3	77.6	78.2
	思考・判断・表現	70.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は71.4%で、市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ○「実験の結果から、水溶液の種類を特定できる」の設問の平均正答率は76.6%で、市の平均正答率を9.2ポイント上回っている。 ○「ミョウバンが水に溶ける量について、グラフから読み取ることができる」の設問の平均正答率は74.0%で、市の平均正答率を13.4ポイント、全国の平均正答率を16ポイント上回っている。 ●「未知の水溶液を特定する実験の方法を計画できる」の設問の平均正答率は29.9%で、市の平均正答率を2.9ポイント下回っている。	・見通しや方法も分からないまま観察・実験をしたことがあるため、事故や失敗を防ぐとともに、指導と配慮で実感を伴った理解を図るようにする。また、結果の考察による結論の導出を丁寧に行い、問題解決能力を育む。 ・物の溶け方について自分の考えをもち、溶ける量や様子に着目して友達と話し合うことや、水の温度や量などの条件を制御しながら自分の言葉で考えをまとめることなど、言語活動の充実を図る。 ・「水よう液の性質」では、教科書で取り上げられている水溶液の性質について理解させるだけでなく、発展的な内容についても取り上げるなど、授業の展開を工夫する。
生命・地球	○本校の平均正答率は79.5%で、市の平均正答率を5.5ポイント上回っている。 ○「台風の風による被害を指摘できる」の設問の平均正答率は92.2%で、市の平均正答率を7.5ポイント、全国の平均正答率を17.3ポイント上回っている。 ○「消化について理解している」の設問の平均正答率は77.9%で、市の平均正答率を17.1ポイント、全国の平均正答率を14.3ポイント上回っている。 ●「台風が上陸しやすい時期をもとに、ダムの水位を減らす時期を推測できる」の平均正答率は49.4%で、市の平均正答率を11.3ポイント下回っている。	・「生物とかんきょう」では、外来種の生物が環境に与える影響について、具体的な事例を挙げながら考えさせたり、タブレットを活用して調べさせたりすることで、知識の定着を図る。 ・「月と太陽」では、月と太陽の位置関係のモデルを見て月の形を考えることができるよう、自然現象についての理解を深める学習場面を多く設定する。 ・「天気の変化」では、映像などの気象情報と関連付けて調べたり、考えたりする活動を設定し、身近な自然現象についての理解を深めていきたい。

宇都宮市立城東小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシートを活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	国語の漢字の読み書きについては、ほとんどの問題で市の平均正答率を上回っている。送り仮名を付けて書く問題の正答率が低く、市の正答率6ポイント下回っていた。 算数の「数と計算」では、ほとんどの計算問題で市の平均正答率を上回っている。異分母分数の減法（約分なし）の計算問題において、市の平均正答率を2.8ポイント下回っていた。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語では、「予想される反論とそれに対する自分の意見を具体的に記述する」問題において、市の平均正答率を上回っていた。 「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の質問に対して、1、2年生は市の肯定的回答を上回っているが、3、4、5、6年生は市の肯定的回答を下回っている。授業で大事だと思うところを自分で捉えて書くことにおいて、課題が見られる。
児童が考える楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示し、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に対して、ほとんどの学年で市の肯定的回答を下回っている。 4教科とも、「思考・判断・表現」の観点において、市の平均正答率を上回っている。今後も児童が学ぶ楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりに努めていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が市の平均正答率を上回っており、計画的に実施している「漢字検定」の成果と考えられる。今後はさらに、学年の配当漢字を文の中で正しく使えるよう意識させたり、文章の中で漢字を書く機会を意図的に設けたりすることで、漢字や作文の技能を高めていきたい。算数では、「知識・技能」の観点で市の平均正答率を上回っている。「数と計算」の正答率は、市の平均正答率を上回っており、計算の基礎技能が定着しているといえる。継続して「計算検定」に取り組んできた結果と考えられる。

・今後も各教科等でめあてやねらいを明確にして、児童が学習した内容を自分の知識と関連付けて考えたり、友達と学び合って考えを深め合ったりし、思考したことやその過程を説明する活動が充実する授業づくりを目指していく。授業のまとめや振り返りにおいては、学習したことを見つめ直し、目的を意識して自分の考えを表現できる力を育成していく。

・学習に関する質問では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に対する肯定的回答は、全ての学年で市の肯定的回答を下回っており、「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」に対する肯定的回答は、1、2年生で市の肯定的回答を上回っている。今後はさらに、児童が学ぶ楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりに力を入れていきたい。また、「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」に対する肯定的回答は、3、6年生で市の肯定的回答を上回っている。本校の特色であるノートによるまとめだけでなく、パソコンを使ったまとめについても継続して指導し、最終的には児童がまとめ方を選択できるようにしていきたい。

・家庭での学習に関する質問では、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」に対する肯定的回答は、3～6年生全てで市の肯定的回答を下回っている。今後は、自主学習ノートを活用した指導を充実させ、計画的に習ったことを復習したり、テストだけでなく間違えた問題をきちんとやり直したりすることが習慣化するように継続して指導していく。